

# 製品名 ボンフロンAC#1100SRクリヤー

ボンフロン株式会社

系統	フッ素樹脂系塗料				
特徴	1. 雨筋汚れ防止機能を有しています。 2. 高耐候性を有しています。 3. 耐薬品性、耐水性、耐汚染性に優れ、腐食雰囲気中での耐久性も良好です。				
用途	長期間にわたる耐久性と美観を要求される箇所 特にコンクリートなど、素材の質感の維持と保護を要求される箇所				
荷姿	15 kgセット (主剤: 12.5 kg 硬化剤: 2.5 kg) 4 kgセット (主剤: 3.3 kg 硬化剤: 0.7 kg)				
色相	クリヤー				
組成 適用法令	主剤	樹脂ワニス	57	消防法 危険物区分	第4類第2石油類 (非水溶性) 危険等級 III
		溶剤 添加剤	39 4		
	計	100	消防法 危険物区分	第4類第2石油類 (非水溶性) 危険等級 III	
	硬化剤	樹脂 溶剤			48 52
		計	100		
塗料性状		粘度 (mPa・s)		比重	加熱残分 (%)
	主剤	67.5		1.00	37.0
	硬化剤	—		1.01	50.0
	混合液	—		1.00	39.2
※ 塗料性状に記載している数値は代表値を示すものであり、若干の変動があります。					
取扱上の注意	別紙及びSDSを参照してください。				
塗装条件	雰囲気	温度5°C以上、湿度85%RH未満			
	混合比	主剤：硬化剤 = 12.5 : 2.5			
	希釈剤	ボンフロンシンナー			
	塗装方法	刷毛、ローラー、エアレススプレー、エアスプレー			
標準所要量 希釈量	塗装方法	所要量 (kg/m <sup>2</sup> )			希釈率
		理論	塗着効率	標準	
	刷毛・ローラー スプレー	0.07	80% ~ 100% 60% ~ 80%	0.07 ~ 0.08 0.08 ~ 0.11	0% ~ 30% 0% ~ 30%
※ 上記標準所要量は、標準的な所要量であり、被塗物の形状・素地状態及び塗装方法により、差が生じます。					
標準膜厚	希釈率	標準膜厚 (μm)			
		乾燥膜厚	WET膜厚		
	0% 30%	20	69 94		
ポットライフ 乾燥時間 塗装間隔		23°C			
	ポットライフ	5時間			
	指触乾燥	30分			
	半硬化乾燥	—			
	硬化乾燥	6時間			
	塗装間隔	—			

※ ポットライフと乾燥時間は目安です。無希釈、一定の温度条件の恒温槽にて測定したものです。

※ 乾燥時間の測定方法は、JIS K 5600-1-1 4.3.5 によります。

※ 本書類の内容は、予告なく変更する場合があります。

# 取扱い上の注意事項

## 1. 取扱い方法及び保管

- ・主剤と硬化剤、及びシンナーは既定の割合で混合し、十分に攪拌してからご使用ください。
- ・被塗面の油脂、塵埃、水分などの付着物は除去してください。
- ・硬化剤は水分と反応しやすいため、開封後は出来るだけ早くご使用ください。
- ・火気のあるところでは使用しないで下さい。
- ・取扱い作業場所には、局所排気装置を設けて下さい。
- ・塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気を吸込まないようにして下さい。
- ・取扱い中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて、有機ガス用防毒マスク又は送気マスクを付け、更に頭巾、保護めがね、長袖の作業衣、えり巻きタオル、保護手袋等を着用して下さい。
- ・容器からこぼれた場合には、ウエスで拭きとって、水をはった容器に保管して下さい。
- ・塗料あるいは溶剤等の付着したウエスや塗料カス、スプレーダスト等は廃棄するまでは、必ず水に漬けておいて下さい。
- ・取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行ってください。
- ・缶上部の取っ手は手下げ専用です。ロープやフック等を取っ手に取り付けてつり下げないで下さい。
- ・貯蔵中は容器を密閉し、直射日光や雨のあたらない、換気の良い一定の場所を定めて保管して下さい。
- ・部外者の出入りできないところで、かつ子供の手の届かないところに保管して下さい。

## 2. 救急処置

- ・皮膚や着衣に付着した場合は、水やせっけんで十分に洗い落とし、皮膚に痛みや外観の変化があるときは、医師の診察を受けて下さい。
- ・目に入った場合は、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- ・蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- ・誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の診察を受けて下さい。

## 3. 火災時の処置

- ・万一、火災が発生した場合には、炭酸ガス、泡又は粉末消火器を用いて下さい。

## 4. 廃棄

- ・廃材、材料の付着したウエス等は安全な方法で保管し、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
- ・容器は中身を使い切ってから、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。

## 5. 誤使用

- ・本来の用途以外(シンナー遊び、汚れ落とし等)に使用しないで下さい。
- ・指定された以外の材料と混合しないで下さい。

## 6. 詳細情報

- ・詳細な情報が必要な時は、安全データシート(SDS)をご参照下さい。

## 7. 低温時に塗装する際の注意事項

想定される状態		発生する不具合		対策、注意点
下塗が未硬化の場合		<ul style="list-style-type: none"> <li>・下塗り成分が移行(ブリード)</li> <li>・ちぢみ(旧塗膜がある場合)</li> <li>・上塗り塗膜との融合</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・下塗り塗膜が硬化状態にあることを確認する。</li> <li>・下塗り塗膜に外観異常がないか確認する。</li> </ul>
硬化速度の低下		<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装後の結露や降雨による影響を受ける時間が長くなってしまう。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装後に気温の低下、降雨の恐れがある場合は、塗装しない。</li> </ul>
水分の混入	塗装前	結露	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗膜の膨れ、発泡、軟化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装前に被塗面の状態を確認する。</li> </ul>
	塗装後	結露 降雨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗膜の膨れ、発泡、雨跡の形成、艶の低下、白化など。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装後に気温の低下、降雨の恐れがある場合は、塗装しない。</li> </ul>